

学校法人名古屋学院 2019年度事業報告書

法人の概要

1887年 名古屋英和学校として創立

1906年 名古屋中学校に校名改称

1948年 名古屋高等学校を設置

生徒数(2019年5月1日)

中学校 804名、高等学校普通課程 1444名

中学校

学 年	収容定員	生徒数	学級数
1年生	252名	293名	7
2年生	252名	267名	7
3年生	252名	244名	6
合 計	756名	804名	20

高等学校普通科

学 年	収容定員	生徒数	学級数
1年生	520名	474名	12
2年生	520名	505名	13
3年生	520名	465名	12
合 計	1,560名	1,444名	37

職員数(2019年5月1日)

専任教育職員 115名、専任事務職員 17名

法人役員 理事 11名 監事 2名 (2019年5月1日)

理事会 8月を除き毎月開催(臨時1回)

法人評議員 25名

評議員会 5月、3月に開催

事業の概要

基本方針

建学の精神を教育の根幹に据え、歴史と伝統を継承発展させ、本校の特色教育を一層充実させるものとする。

教育事業

《全般的事項》

- ・今年度より土曜日は授業を行わない、授業 5 日制とした。高校は木曜日を除く週 4 日の 7 限授業を実施し、週 34 時間の授業を展開した。中学では 3 年生は週 3 回、1, 2 年生は週 2 回の 7 限授業を実施し、3 年生は週 33 時間、1, 2 年生は週 32 時間の授業を展開した。
- ・大学進学実績は、国公立大学合格者数が 165 名で、ほぼ昨年並みとなった。難関 10 国公立大学の合格者数は、京都大学 5 名、名古屋大学 14 名など 27 名で昨年に比べると 10 名程度減少した。東京大学の合格者は 3 年ぶりに 0 名であった。医学部医学科は国公立大学 8 名、私立大学医学部医学科を合わせると 38 名となり、昨年、一昨年とほぼ同じ水準を維持した。
- ・各学期に「生活規律強調旬間」を設定するなど、基本的な生活習慣の確立に向け、生活指導を継続的に行った。
- ・学校行事や生徒会活動では、愛校祭（文化祭）の 2 日間開催、球技大会の実施など、生徒の自主性を育成する行事等を生徒主体で計画・立案・実行させる指導をした。
- ・女子部開設委員会を設置し準備作業にあたった。
- ・学院プロジェクト会議を立ち上げ、各方面からの人材より、学院が抱える諸課題を検討することとした。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、3 月を休校とした。

《教育条件整備》

- ・次年度に向けて 6 名の教育職員と 3 名の嘱託職員を新規採用した。
- ・教員に iPad を 20 台貸与し、ICT 教育の技術向上を推進した。
- ・学校カウンセラー 2 名が、各職員室、相談室で生徒、保護者、教員と面談し、生徒の心のケアに当たった。職員全体に向けての研修会の実施、学年会への陪席、校長、両教頭、養護教諭との定期的な情報交換を行うなど、学校全体で生徒のケアに対する取り組みを深めた。
- ・図書館内ラーニングコモンズの利用を促進し、生徒の協働的な学びの機会を確保するとともに、探究活動の可能性を広げることに努めた。
- ・昨年に続き『名古屋学院論叢』（第 19 号）を発刊し、学校の文化的な雰囲気醸成に努めた。

《生徒募集広報活動》

- ・高校入試における広報活動は、入試広報部長、渉外担当者と運営委員で、公立中学校訪問および学習塾等の訪問を積極的に行った。公立中学校訪問の際は、事前に進路指導主事とアポイントを取り、丁寧な説明に努めた。春、秋の 2 回、それぞれ 269 校を訪問した。
- ・高校入試では、推薦入試志願者が 169 名（昨年比-27、以下同）、一般入試では 1,016 名（+41）となり総志願者数は 1,185 名（+14）と微増ではあるが 3 年続けて志願者数が増加した。

- ・ 中学入試においては、主に学習塾訪問と学習塾主催の学校説明会に積極的に参加し広報活動を行った。その結果、中学入試の総志願者は1,524名(+129)となり、過去最高であった昨年、一昨年の志願者数を大きく更新した。5年目となったグローバル入試の志願者は、昨年から21名増え、過去最高の57名となった。
- ・ 中学は4年、高校も3年続けての志願者増となっている要因は様々なことが考えられるが、やはり本校の教育活動、進学実績が社会に広く評価されていることと考えられる。本校主催の学校説明会への参加者の増加が志願者増にもつながっている。今後も積極的な公立中学校、学習塾訪問や学校説明会で丁寧な説明を努め、本校の魅力をアピールしていく。

《入試政策・入試結果》

- ・ 中学240名6クラス、高校の外部募集240名6クラスとする入試政策を立案した。
- ・ 中学募集は、昨年、一昨年の歩留まりの上昇、入学者増を意識しながら、追加合格を出さない6クラス編制とすることを考慮して、昨年より合格者を50名以上減らし794名を合格とした。結果、予想入学者数を若干上回る258名が入学し、1クラス43名の6クラス編制となった。
- ・ 高校の外部募集は、新高3が13クラス、新高2が12クラスであることを念頭に、文理選抜クラス2クラス、文理コース4クラスを想定して行った。志願者数は一昨年から続けて1,000名超となっているが、合格率の極端な低下は次年度募集、志願者数に大きな影響を与える。今年度の合格率は推薦81.0%（昨年80.1%）、一般71.0%（昨年65.8%）とした。結果、233名の登録があり、文理選抜クラス86名2クラス、文理コース147名4クラス、全体で12クラス編制となった。近年は「志願者数は増やしたいが合格率は下げたくない」「入学者数は6クラス編制にしなければならない」というジレンマに陥っている。特に次年度は名中からの進学者が266名7クラスとなるので、外部募集政策を検討しなければならない。

《進学指導》

- ・ 「敬神愛人」の精神に満ちた紳士であり、世の中のリーダー（サーバントリーダー）に成り得る人財を育成することを目標としている。生徒の進路意識は年々高まり、高校3年生の初期段階では国公立大学志望者、難関私立大学志望者はともに在籍者の半数以上である。入学時の割合はこれよりももっと高いと考えられる。今後はこの期待に応えていかねばならない。
- ・ 今年度の国公立大学の現役合格者は118名（うち名中出身者62名、以下同）であり、昨年より増加したが、既卒生の合格者が減少し、現役、既卒合わせた合格者数は165名となった。難関国公立10大学の現役合格者数は15名（10名）で昨年の23名（18名）から減少した。
- ・ 難関国公立大学現役合格者数の内訳は、京都大学4名（3名）、名古屋大学10名（7名）、大阪大学1名である。今後は国公立合格者総数だけでなく、難関国公立現役合格者数をいかに増やすかが課題である。
- ・ 医学部志望者も近年は増加しており、各学年の進学講座で教科指導や面接指導を行っているほか、名古屋市立大学で医療体験セミナーを実施していただいた。
- ・ 医歯薬獣の合格者の内訳は下記のとおりである。

医学部医学科	国公立8名（7名）私立30名（25名）
歯学部歯学科	国公立2名（2名）私立14名（12名）

薬学部薬学科	国公立 6 名 (5 名) 私立 59 名 (47 名)
獣医学科	国公立 1 名 (1 名) 私立 2 名 (2 名)

《国際交流》

- ・夏休み海外語学研修はイギリスのイートン・カレッジ (参加者 18 名) , バックスウッド・スクール (参加者 20 名) とカナダのセント・マイケルズ・ユニバーシティ・スクール (参加者 20 名) の計 3 コースで実施した。
- ・春休み海外語学研修は, オーストラリアのアイオナ・カレッジで実施するよう募集, 選考, 事前学習をしたが, 新型コロナウイルスの影響で中止となった。
- ・中長期研修はメントン・グラマースクールへ 1 年間留学生として高校 1 年生 1 名, アイオナ・カレッジへターム留学で中学 3 年生 2 名を派遣した。このうち, アイオナ・カレッジのターム留学は 1 月 24 日から 4 月 3 日までの派遣予定だったが, 新型コロナウイルスの影響で 3 月 20 日に帰国した。
- ・受け入れは, 短期 (7 月 6~18 日) であったが, アイオナ・カレッジから 3 名を受け入れた。

財務の概要

2019 年度の生徒一人当り入学時以外の納付金

中学校 1・2・3 年 456,000 円 (愛知県平均額約 508,724 円)

高等学校 1・2・3 年 456,000 円 (愛知県平均額約 451,174 円)

愛知県私立学校経常費補助金

2019 年度は 773,480,000 円の経常費が交付され、生徒一人当りにして高等学校は 364,900 円、中学校は 307,000 円であった。